

八尾・よろず考古通信

八尾市立埋蔵文化財調査センター情報誌 年2回発行



令和3年度秋季企画展『やおの古墳時代(初頭～前期)―3～4世紀の墓制―』から

1. はじめに

秋季企画展では、庄内式土器様式の成立期以後を古墳時代および古墳築造の開始と捉え、3～4世紀の八尾市域を中心とした中河内地域に築造された古墳を紹介し、初期ヤマト王権の時代における当該地域の役割を考えてみました。そこで、本号では、当該期の市内の主な遺跡から発見された古墳とそこから出土した遺物を紹介いたします。



図1 八尾市内の古墳時代初頭～前期の集落および古墳分布図

2. 河内の3～4世紀の古墳

3世紀の主な古墳

3世紀代の古墳は、平野部を中心に弥生時代の方形周溝墓の系譜を引く周溝墓(墳丘墓)があり、初頭後葉(3C中葉)には定型化した前方後方墳の築造が一部で見られます。造墓は、古墳時代初頭前葉～前期初頭(3C初頭～後葉)にかけて活発に行われました。特に、前期初頭(3C後葉)の久宝寺1号墳(図4)は、主体部に割竹形木棺、墳丘四隅に壺形土器を樹立させる葬送儀礼を用いた点で、中河内地域で古墳文化の受容が認められた古墳として注目されています。この時期、市域平野部の萱振・東郷・成法寺・久宝寺・亀井北・八尾南遺跡で古墳が造られます。

4世紀の主な古墳

4世紀代の古墳のなかでも、前期前葉(4C前葉)のものは市域平野部の久宝寺古墳(前方後方墳)があります。前期中葉(4C中葉)では市域北東山麓部に所在する「楽音寺・大竹古墳群」中の西ノ山古墳(前方後円墳)、平野部の東郷遺跡8古墳・90古墳(方墳)があります。前期後葉(4C後葉)では、「楽音寺・大竹古墳群」中の花岡山古墳(前方後円墳)や、平野部では萱振1号墳(方墳)、美園古墳(方墳)、中田古墳(円墳)があります。



写真1 河内平野(手前)と生駒山地(奥) 平成11(1999)年撮影

3. 各遺跡内に存在する古墳

萱振遺跡

府立八尾北高校の建設に伴う調査では、古墳時代前期初頭(3C後葉)～前期前葉(4C前葉)の方形周溝墓 4 基や前期中葉(4C中葉)の萱振 1 号墳が見つっています。なかでも萱振 1 号墳からは、^{ひれつき}鰭付円筒・朝顔形埴輪のほか、家形・^{くさずり}草摺形・^{ゆぎかた}靱形(図 2)の形象埴輪が見つっています。萱振 1 号墳は、中河内地域の古墳時代前期中葉の古墳のなかで最大規模のものです。豊富な埴輪類から見て、地域を代表する有力な首長の墓であったと推定されます。

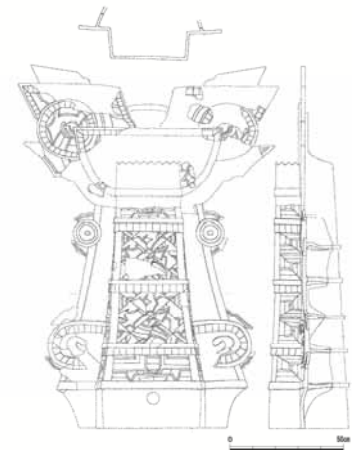


図 2 萱振 1 号墳出土 靱形埴輪実測図
 ≪萱振遺跡 府教委≫

東郷遺跡

第 20 次調査では、古墳時代初頭～前期(庄内式～布留式)にかけての墓域(写真 2)を発見しました。方形周溝墓 7 基と土器棺や土壙墓が数基見つかり、特に古墳時代前期初頭の土器棺(写真 3)は、四国東部(阿波)産の壺を用いた珍しい例で、貴重な資料です。7 基のうち陸橋部は 5 基に認められ、そのうち中央に陸橋部を持つものが 1 基、他の 4 基は一隅に陸橋部が設けられています。



写真 2 7 基の方形周溝墓 [S X-1~7]
 ≪東郷遺跡第 20 次≫



写真 3 土器棺出土状況
 ≪東郷遺跡第 20 次≫

成法寺遺跡

第 1 次調査では、古墳時代初頭後葉(3C中葉)～前期初頭(3C後葉)の周溝墓 4 基(S X 1~4)が見つかりました(写真 4)。S X 1・3・4 は方形周溝墓、S X 2 は前方後方墳(纏向型前方後方墳)と考えられます。構築時期は S X 3・4 が古墳時代初頭後葉(3C中葉)、S X 1・2 が前期初頭(3C後葉)です。

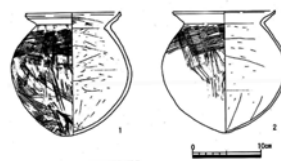


図 3 S X 3 出土遺物実測図
 ≪成法寺遺跡第 1 次≫

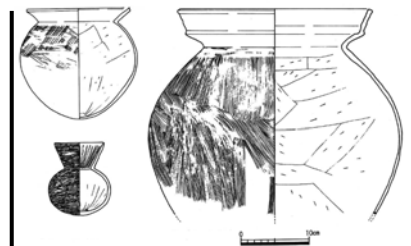


図 4 S X 4 出土遺物実測図
 ≪成法寺遺跡第 1 次≫

南本町一丁目の府道拡幅工事に伴い府教委が実施した発掘調査では、古墳時代初頭中葉(3C前葉)の円形周溝墓 1 基(S X 1)が見つかりました(図 5)。中河内地域で検出された当該期の数少ない円形周溝墓で、規模的にも最大級のものです。



図 5 円形周溝墓(S X 1) ≪成法寺遺跡 府教委≫



写真 4 周溝墓群(S X 1~4)検出状況
 ≪成法寺遺跡第 1 次≫

中田遺跡

第 19 次調査では前期後葉(4C後葉)の中田古墳が見つかりました。墳丘規模は径 33.5m で、周濠幅は約 6m、深さ約 0.8m を測り、周濠部を含めた直径は約 45.5m になります。周濠からは円筒埴輪 13 点以上、朝顔形埴輪 5 点以上が出土しており、また、家形埴輪 5 点以上(写真5)、船形埴輪 1 点などの形象埴輪が出土しています。



写真 5 中田古墳出土家形埴輪
《中田遺跡第 19 次》

郡川遺跡

第 33 次調査では、弥生時代後期後半と古墳時代前期の墓域を確認しました。古墳時代前期では 4 基の方墳を検出し、全容が判明した方墳 201 は、東西 22.0m、南北 23.4m の規模を測ります。方墳 201(写真6)や方墳 202(写真7)の周溝からは直口壺(写真8・9)が出土しています。



写真 6 方墳 201 検出状況
《郡川遺跡第 33 次》



写真 7 方墳 202 検出状況
《郡川遺跡第 33 次》



写真 8 方墳 201 直口壺出土状況
《郡川遺跡第 33 次》



写真 9 方墳 202 直口壺出土状況
《郡川遺跡第 33 次》

令和 3 年度のイベントから

●秋季企画展関連講演会

2021(令和3)年 10 月 24 日(日)には、関連講演会を八尾市生涯学習センターで開催しました。演題は『古墳時代初頭～前期の墓制』で、河内に残る 3～4 世紀のお墓(古墳)を各遺跡毎に紹介しました。また、墓に関連する遺物の特殊器台について、八尾市域での出土例を挙げ、河内から大和へ持ち運ぶルートを考察してみました。



●八尾・考古学散歩

2021(令和3)年 11 月 20 日(土)には、八尾・考古学散歩を実施しました。今回は、「東弓削遺跡・弓削遺跡を歩く」と題し、東弓削遺跡や弓削遺跡の主な発掘地点を巡り、調査成果をお伝えしました。



東郷遺跡から見つかった4世紀の古墳

東郷遺跡の第64次調査では、弥生時代後期後半～古墳時代前期中葉までの墳墓が23基見つかっています。中でも8古墳(写真10)と90古墳(写真14)は古墳時代前期中葉(4C中葉)に比定できる方墳で、両古墳ともに^{ひれ}鱸付円筒埴輪(写真12・15)が出土しています。8古墳は、墳丘規模11.0×13.5m、周溝幅1.4～2.3m、深さ0.29mで、墳丘上では7埴輪円筒棺(写真11)と391埴輪円筒棺が検出され、周溝からは^{うすだま}白玉と^{くだたま}管玉(写真13)が出土しています。また、90古墳は、墳丘規模21.0×22.0m、周溝幅3.0～5.4m、深さ0.25mを測ります。2基の方墳は、東郷・萱振遺跡を中心とした地域首長墓と推定されます。



写真10 8古墳 検出状況



写真11 8古墳 7埴輪円筒棺出土状況



写真14 90古墳 検出状況



写真12 8古墳出土 鱸付円筒埴輪



写真13 8古墳 周溝内 白玉・管玉出土状況



写真15 90古墳出土 鱸付円筒埴輪

編集後記

新型コロナウイルスの変異株(オミクロン株)が蔓延し、感染拡大の第六波が到来している今日この頃です。

当センターでは、検温の実施、手指の消毒等、感染症拡大防止に日々取り組んでいます。

他団体との会議は、オンラインで実施することが多くなり、出向いて対面で行うことは激減しています。会議は、オンラインでも良いと思いますが、遺物の検討については、やはり実物を観察した上で、意見交換が必要かと常に思います。

何時になれば、人々が集まり、遺物についての対面での検討が出来るのでしょうか。感染症の蔓延が落ち着き、検討が出来る日が待ち遠しいです。

K N

イベント情報

- ◆通常展「八尾の地宝」ー市立埋蔵文化財調査センター収蔵品展ー
- 内容：八尾地域の主な遺跡から出土した遺物を中心に展示
- 期間：令和4年2月24日(木)～令和4年6月10日(金)
- 時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時半まで)
- 休館日：土・日・祝日
- 但し5月22日(日)は休日開館



八尾市立埋蔵文化財調査センター情報誌
『八尾・よろず考古通信 26号』

発行：2022年3月31日

八尾市立埋蔵文化財調査センター指定管理者
公益財団法人八尾市文化財調査研究会
〒581-0821 大阪府八尾市幸町四丁目58-2
TEL・FAX 072-994-4700
E-mail：maibun_zyao@white.plala.or.jp

